

二〇二〇年三月二十九日（日）一五時〜 横浜市教育会館3F春風社にて

対談

叡智の人・森田正馬にきく——森田療法の誕生

畑野文夫（「正知会」しょうちかい会長）×三浦衛（春風社代表）

森田正馬 日本の医学者、精神科神経科医。神経質に対する精神療法である「森田療法」を創始した。高知県野市町（現・香南市）生まれ。自らも神経質に悩んだ経験を持つ。精神分析学には批判的であり、東北帝国大学教授丸井清泰との論争があつた。（ウィキペディアより）

1 地獄絵と死

九歳か一〇歳のころ村の寺で極彩色の地獄絵を見る。中学校に進んでから哲学志向になるもとなつた体験。

2 日記から見えてくるもの——畑野文夫著『森田療法の誕生』

森田正馬の少年時代、芸術・文学・哲学への興味・関心

3 森田正馬とその時代

呉秀三、藤村トヨ、フロイト、クレペリン、モンテッソーリ、ウイリアム・ジェイムズ、ベルクソン

4 森田療法の誕生

永松（アイ）看護長を森田の自宅に住ませ療治する。

5 森田療法と仏教——人格的な濃密な一対一の関係

信仰でなく哲学としての
〈余は知を満足せしめて安心立命を得んと欲するものなり〉
繫驢桔、不安即安心、煩悶即解脱
ご自身の体験から

◇畑野文夫プロフィール

一九四〇年東京に生れる。一九六五年早稲田大学第一文学部仏文科を卒業し、講談社に入社。美術図書の編集に携わる。美術図書第二出版部長、美術局長、取締役総合編集局長、常務取締役（書籍部門担当）、講談社インターナショナル社長をつとめる。